

### 1. 本園の教育保育目標

保護者の協力を得て、多くの良質な体験を通して自信を持たせ、園児個々の成長目標を達成する

- ・心情(Feeling)の豊かな子ども…「感情表出」「愛情」「他への理解」「申告意欲」「試行意欲」「連帯意欲」「正義感」
- ・態度(Manner)の良い子ども…「挨拶」「謝罪」「感謝」「懇願」「自己責任」「選択責任」「勝者の義務」
- ・自主的に行動(Behavior)できる子ども…「規律遵守」「忍耐」「勇気」「責任感」「委任追従」「自己主張」「自己顕示」
- ・個性(Identity)豊かな子ども…「演出表現」「演技」「言語」「心情表出」  
 「絵画制作」「興味・関心」「集中・熱中」「創造・想像」
- ・健康(Health)な子ども…「運動・体力」「走・跳・投」「泳・潜」「持久意欲」

### 2. 今年度、重点的に取り組む目標、計画

①独自の大胆な処遇改善を図り、園の多機能サービスを徹底試行していく。②施設間の人材交流、ウェブ研修、昇級試験、同僚評価、アワードバンケットを通して専門職知識・研究心・人間性向上に繋げる。

### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

| 評価項目(課題)                  | 取り組み状況   |
|---------------------------|--|
| ① 新しい発想による保育環境            | デュアルプロジェクト(教育活動と体験活動の両面)の実施により、全職員で今までの考え方の枠を超えて、良質な実体験の方法を考えることを進めている。次年度から実施できるようにしたい。   |
| ② プレチームタイムの確保             | プレチームの朝選択あそびの時間を8:30-11:30に拡大し、2バス登園のお子さまも朝に遊ぶ時間を作ることができた。クラス活動で半数ずつ進めたい活動の時にはプレチームと連携し、遊べたことで子ども達の満足度も高く、クラス活動に集中して取り組むことができている。今は朝プレ、昼プレタイムと分かれているが、次年度は時間で区切ることなく、8:30-14:00まで遊びの時間を拡大し |
| ③ 挨拶の体得化(園児・職員)・職員の人間性の向上 | 職員間の挨拶、外部の方への挨拶の意識が高まり、自然と気持ちの良い挨拶が飛び交うようになっている。職員が子ども達のお手本になることで、子ども達から言えるようになった。しかし、関わりが少ない先生や、お客様から声をかけられての場面では、挨拶されても返せない子どもがいるので、体得できるように継続していきたい。                                    |

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

近年の様々な時代の変化が、園での教育保育にも顕著に表れ、子どもの成長、発達について深刻に考えることの必要性に対応する場を多くもつ1年となった。その大きな問題の1つとして、スマホ社会での動画視聴が子どもに与える悪影響であった。配慮が必要なおさまに限らず、リアルな体験の減少、人とのコミュニケーション機会の減少は発達に大きな影響を与えている。園ではカンファレンスを行い、困った子どもをつくらない、小さな頃から気になったことを出して改善していく、卒園してからその子がどういう道を歩むのかを考えて育てる、乳幼児の教育機関として、早くから問題を発見して、社会生活の基礎を習得できるようにしていくことを、全職員で真剣に考え、様々な方法で一人一人に合わせた保育実践を行った。また、保護者にも啓蒙し、園と家庭とで連携して子どもの発達を高めていくことができた。次年度は、さらに新しい発想による保育環境を考え、リアルな体験の機会を実践的に取り入れて、次代の子ども達の育ちを高めたい。

5. 今後取り組むべき課題(次年度へむけて)

| 課題             | 具体的な取り組み方法   |
|----------------|--|
| ① 新しい発想による保育環境 | 今年度同様で継続しての課題となるが、デュアルプロジェクト(教育活動と体験活動の両面)の実施により、実際に実践的に行っていく。真剣な、感動の体験機会を考えて、ワクワク・ドキドキして成長できる事を考える。 |
| ②              |  |
| ③              |  |

6. 学校関係者の評価

【今年度の目標】

- ① 常識を排して、個々の子供の心身発達を獲得するための『向上心』『探究心』『人間性向上』の努力による新思考実践力を高める。
- ② 専門職としての『意識』『認識』『行動』の獲得に応える独自の継続可能な処遇改善を図る。以上の目標を掲げ上げられました。

【理事会からの評価】

1. 京都市の入園児減少に伴い新入園児の減少が心配されると思われたが職員の努力により昨年とほぼ同数ぐらいの入園児が確保されていることを大いに評価する。
2. これに伴い経営状態も決して楽観される状態ではないが順調に推移している模様である。
3. 各園の意識向上がアーバンバンケットの試みにより効果的に広がり、他の園にもリモートで広がりつつある。このことは園が全国のトップランナーであり続けるための一つの試みであり大いに評価すべき試みである。

【全体として】

常に幼児教育に対して前向きに改革・挑戦そして全国の幼児教育のフロントランナーとしてあるべき指針を模索する法人理事長・園長・職員に理事会・評議会は客観的にかつ主体的に評価・アドバイスを行ってまいりました。

人口減少という負の社会的背景を背負いつつ職員の処遇改善を試み園児及び保護者の期待に副う教育を目指している法人に対し期待と尊敬をもってこの評価を終わります。

令和6年3月31日 理事会